

◆令和5年度 東国文化自由研究◆

「日本に文字がない時代になぜ！？」

「上野三碑は作られたのか」



築造時を想像してイラストレーターで描いた多胡碑

前橋市立桂萱中学校3年6組

安塚 万佑子

はじめに

小学5年生から続けてきた東国文化自由研究も今年が最後の年になりました。

これまで旧石器・縄文・弥生・古墳時代などの遺跡に行き、昔の人は今立つ同じ場所でのような光景を見て、どのような思いを持って過ごしていたのか考えることが私の夏休みの研究になっていました。東国文化自由研究の最後にいったい何を研究しようか？少し苦手な古墳時代後の東国文化を研究して好きになってみよう、と思いました。

題名は「日本に文字がない時代になぜ！？上野三碑は作られたのか」、研究テーマとして、次の4点をあげました。

- (1) ユネスコ世界の記憶「上野三碑」、万葉仮名も無い時代に“なぜ”文字を彫ることができたのか？を調べる。
- (2) 「上野三碑」は何が書かれている石碑なのか？調べる。
- (3) 不得意科目の理科を交えた自由研究とする。
- (4) 花崗岩質砂岩（牛臥砂岩）を削り、どんな苦労があったのか確認をする。

- (1) ユネスコ世界の記憶「上野三碑」、万葉仮名も無い時代に“なぜ”文字を彫ることができたのか？を調べる。

#### ① 日本の文字のルーツ

私はまずインターネットで文字のルーツを調べることにし、ことば研究館のサイトを運営する齋藤達哉さんの2019年3月8日のブログを参考にしました。

齋藤さんによれば、

・日本語は、当初は文字を持っていなく、文字は言語を記録するために後から誕生した。言語が文字を持つには、新たに作りだすか、他の言語で既に使われている文字を借りてくるかの二通りの方法が考えられ、文字を持っている言語の多くは、借りてくるという方法によって表記体系を作り出している。日本語の場合は「漢字」を借りてきた。

・日本語は、漢字を表語文字として使うほかに、漢字をもとにした表音文字（ひらがな・カタカナ）も作り出した。現代日本語は、「漢字かな交じり文」であるが、表語文字と表音文字との二つの文字を混ぜて使っている言語は珍しい。

・日本語を話す人々が漢字に最初に出会った時期は、金印（福岡県志賀島出土）や銅銭（長崎県シゲノダン遺跡出土）などから、1世紀ごろだと推定される。いずれも中国大陸で製作された品物で、金印には「漢委奴国王」、銅銭には「貨泉」という漢字が記載されている。

・5世紀頃になると、日本で制作された鉄剣や銅鏡に、日本の地名や人名が漢字を用いて記載されるようになる。稲荷山古墳（埼玉県行田市）出土の鉄剣の銘文には「乎獲居（ヲワケ）」「意富比埜（オホヒコ）」という人名、「斯鬼（シキ）」という地名が刻まれている。江田船山古墳（熊本県玉名郡和水町）出土の鉄剣の銘文や、隅田八幡宮（和歌山県橋本市）伝来の銅鏡にも人名・地名が漢字を用いて記されている。これらの製作には渡来人が関わっていた可能性が指摘されている。

## ② 群馬県の文字のルーツ

私は一昨年「群馬県は本当に馬が群れていたのか？」の研究をしました。馬の生産は、中国大陸や朝鮮半島から渡来人（当時交流の深かった百済や加耶地区の援軍として高句麗や新羅との戦乱の影響によって移り住んだ人々）によって伝えられたとことが分かりました。綿貫観音山古墳などから発見された馬具、白井・吹屋遺跡群や金井東裏遺跡の蹄跡、保渡田古墳群と三ッ寺Ⅰ遺跡から想像される豪族像からも証明することができます。

昨年の「東国文化は文明だったのか？それとも文化なのか？」の研究では、太田天神山古墳を見学してきました。全国第28位の規模であり、しかも大和政権の象徴でもある形（前方後円墳）をしていました。また、陸路は古東山道で大和地方と結ばれていて、大和政権がもくろむ関東や東北地方への支配拡大をにらむ拠点として最適な場所であった。このことから、群馬県は大和政権と深い関係があったと知ることができました。

今年の研究で訪れた高崎市の辛科神社は、多胡碑にもある多胡郡（たごのこおり）が設置された際に多胡郡総鎮守となったそうです。名前の辛科は、神社周辺が多胡郡の韓級（からしな）郷という地区だったことに由来するとのことでした。

以上のことから、群馬県へ文字が伝わったことにも大和政権が深く関わり、渡来人が伝えたものだと推測します。

渡来人関係の記録を年表でみる（「新編日本史図表」第一学習社より）

4世紀中頃	王仁(わに)、阿知使主(あちのおみ)ら渡来
404年	倭軍、高句麗に敗北
4世紀中頃～5世紀頃	朝鮮半島の戦乱で渡来人が増加
513年	百済より「五経博士」渡来
540年	渡来人の戸籍を編む
577年	百済から造仏・造寺工が渡来
608年	新羅人が多く渡来
609年	肥後国に80人の百済人漂着
610年	高句麗から曇徴(どんちょう)が渡来し、紙の製法を伝える
660年	百済滅亡
663年	白村江の戦いで、日本・百済連合軍大敗
666年	百済人2千余人を東国に移す
668年	高句麗滅ぶ
669年	近江国蒲生郡に百済人700余人を移す
676年	新羅が半島を統一
684年	百済人23人を武蔵国に移す
689年	高句麗人56人を常陸国、新羅人14人を下毛野国に置く
711年	上野国に多胡郡設置

715年	新羅人を移し、美濃国席田郡設置(岐阜県本巣市席田(むしろだ))
716年	高句麗人 1779 人を、東国の七国に置く

(2)「上野三碑」は何が書かれている石碑なのか?調べる。

8月11日(山の日)は蒸し暑い日でしたが、父・母と一緒に無料巡回バス「上野三碑めぐりバス」に乗って巡ってきました。三碑に共通して言えることですが、

- ・石碑に行くまでの遊歩道がきれいに整備されている

- ・石碑自体は覆屋内に保存されており、セキュ

リティ対策、一部地震被害軽減対策なども施されているなど、窓越しでの見学となっていました。



### ① 多胡碑



場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高崎市吉井町池 1095</li> <li>・多胡郡の範囲は、現在の高崎市山名町から吉井町一帯で、かつて緑野屯倉や佐野屯倉という大和政権の直轄地が設置されていた領域と重なる</li> <li>・当時は先進的な渡来系技術が導入され、窯業、布生産、石材や木材の産出などが盛んな手工業地域になっていた。</li> </ul>
大きさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上から笠石・碑身・台石からなります。</li> <li>碑身は、高さ 129 cm×幅 69 cm×厚さ 62 cm の方柱状で上部に低いホゾがあり、この上に笠石が載っている</li> <li>・笠石は、幅 95cm×奥行 90cm×中央厚さ 27cm・軒面厚さ 15~17 cm で、方形の笠のような形で下部がへこんでいる</li> </ul>
材質	花崗岩質砂岩
造られた年代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・711年(奈良時代)</li> <li>・和銅4年(711年)に上野国の14番目の郡として、多胡郡が</li> </ul>

	建郡されたことを記念して建てられた石碑
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全 80 字、6 行にわたって楷書体で丸底彫りされている。</li> <li>・碑身に笠石をのせる形状や楷書体の文字には、当時最先端の中国文化の影響がみられる</li> </ul>
碑文に書かれていたこと	<p>朝廷の弁官局から命令があった。上野国片岡郡・緑野郡・甘良郡の三郡の中から三百戸を分けて新たに郡をつくり、羊に支配を任せる。郡の名は多胡郡としなさい。和銅四（七一一）年三月九日甲寅に命令が伝えられた。左中弁正五位下多治比真人（三宅麻呂）。太政官の二品穂積親王、左大臣正二位石上（麻呂）尊、右大臣正二位藤原（不比等 [ふひと]）尊。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建郡にあたり、羊という名の渡来人と思われる人物が大きな役割を果たし、初代の郡長官になっている碑を建てたものと考え得られる</li> <li>・碑の後段には当時の政府首脳の名を挙げて権威付けを図っている</li> </ul>
その他気付いたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多胡郡建郡は当時の政府による生産拠点のとりまとめと、それに伴う郡の区割りの見直しが目的であったと考えられる</li> <li>・多胡碑、多賀城碑（宮城県多賀城市）、那須国造碑（栃木県大田原市）及び宇治橋断碑（京都府宇治市）が、それぞれ日本三古碑と呼ばれている</li> </ul>

## ② 山上碑



場所	高崎市字山神谷 2104
大きさ	高さ 111cm×幅 47cm×厚さ 52cm
材質	輝石安山岩
造られた年代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 681 年（飛鳥時代）</li> <li>・ 上野三碑の中で、最も古いのは山上碑であり、8 世紀後半建碑と推定される多胡碑より古いだけでなく、日本三古碑中最古の建碑である那須国造碑（700 年建碑）よりも古い</li> </ul>
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 石をあまり加工せずに自然のまま使用</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝鮮半島の新羅の石碑（6世紀）に類似</li> <li>・碑文字数4行61文字はすべて漢字で書かれている</li> <li>・日本語の語順で読むことができる （現在につながる日本独自の漢字の使用法が確認できる大変貴重な史料）</li> <li>・中国大陸や朝鮮半島から伝わった漢字文化と仏教信仰が日本の古代社会に根付いていく様子が感じ取れる</li> </ul>
碑文に書かれていたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放光寺の長利という名の僧が母のために石碑を建てたこと</li> <li>・長利の母方、父方双方の系譜が記されている</li> <li>・長利の母である黒壳刀自（くろめとじ）は、ヤマト政権の直轄地である佐野の屯倉（屯倉の管理者であった健守命（たけもりのみこと）の子孫で、父である大児臣（おおごのおみ）は、赤城山南麓の豪族とみられる新川臣（にいかわのおみ）の子孫になる</li> </ul>
長利はどんな人だったのか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前橋市総社町にある山王廃寺から放光寺の文字を刻んだ瓦が出土しているため、長利が勤めた放光寺は山王廃寺であると推定されている</li> <li>・放光寺が東国有数の大寺院であったことや、仏教が当時の先進的な思想であったことから、長利はかなりの知識人であったと思われる</li> </ul>
その他気付いたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山上碑の東隣にある直径15mの円墳は、中心には南に開いた横穴式石室（奥行き7.4m）があり、地元産の凝灰岩の切石が組まれている</li> <li>・古墳は7世紀前半から中頃のもので、山上碑が建てられた時期（681年）よりも数十年古いと考えられる。このことから、もともとは黒壳刀自の父の墓として造られ、後に黒壳刀自が追葬されたとみられる</li> </ul>

「ふるさと群馬のたからもの」文化財の絵コンクールに応募



山上碑と長利親子を描きました

### ③ 金井沢碑



場所	高崎市山名町金井沢 2334
大きさ	高さ 110cm×幅 70cm×厚さ 65cm
材質	輝石安山岩
造られた年代	726 年（奈良時代、神亀 3 年）
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石を加工せずに自然のまま使用</li> <li>・碑文字数 9 行 112 文字はすべて漢字で書かれている</li> <li>・三家氏名乗る豪族が、先祖の供養と一族の繁栄を祈って建てた石碑</li> <li>・三家氏は佐野三家を管理し、山上碑を建てた豪族の子孫であると考えられる</li> </ul>
碑文に書かれていたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三家氏を中心とした 9 人の名前が記されている</li> <li>・碑を建てたのは三家子□（□は欠字）という人物で、上野国群馬郡下賛郷高田里に住んでいた</li> <li>・三家子□の妻と娘（物部君氏に嫁ぐ）、孫 3 人の名前が登場する</li> <li>・上記 6 人の他、同族とみられる三家毛人・知万呂の兄弟と磯部君身麻呂の 3 人の名がでてくる</li> <li>・上記のとおり、碑文からは、女性が結婚後も実家の氏の名で呼ばれていること、子供達と共に実家の祖先祭祀に参加していることがわかり、家族のつながりに女性が大きな役割を果たしていたことが読み取れる</li> <li>・更に地名の表記などからは、当時の行政制度（国郡郷里制）の整備状況が分かる。</li> <li>・碑文に出てくる「群馬」の文字は、県内では最古の事例であり、群馬県の名前のルーツを知る上で非常に重要な資料となっている</li> <li>・金井沢碑からは、古代東国での仏教の広がり、家族関係、行政制度の実態などを知ることができる</li> </ul>

(3) 不得意科目の理科を交えた自由研究とする。

古代エジプトの象形文字などに見られるように、伝えたい記録を長く残す方法として、簡単に壊せない石に残したと考えられています。私たちは、現代において上野三碑のような碑文石を通じてその土地の歴史や後世に伝えたいことなどを知ることができます。

そのような岩石の成り立ちですが、大きく3つに分類されます。

岩石	内容	種類
火成岩	地面の下には、熱くてドロドロにとけたマグマというものがある。これが噴き出してくるところが火山。火成岩は、このマグマが火山から噴き出したあと、地表で固まったり（火山岩）、また、噴き出す前に地下でゆっくりと固まったり（深成岩）してできた岩石のこと	① 深成岩※ 鉱物の結晶が大きく成長し、同じくらいの大きさになった結晶が集まる ② 火山岩※ 石基と斑晶からなる斑状組織となっている
堆積岩	何百万年、何千万年、何億年という遙か大昔に、海や湖の底に溜まった泥や砂、小石などが長い年月の間に上からの重みなどに押されて、固まってできた岩石のこと	れき岩、凝灰岩、砂岩、石灰岩、泥岩、チャート
変成岩	火成岩や堆積岩が、地下のマグマの熱や、地面の中ではたらく押し潰す力などによって、姿や性質が変わってしまった岩石のこと	※中学では習わない

※深成岩と火山岩の種類

深成岩	花こう岩	せん緑岩	斑れい岩
火山岩	流紋岩	安山岩	玄武岩
鉱物	セキエイ	チョウ石	
	クローンモ	カクセン石	キ石
			カンラン石 その他
色	白っぽい	⇔	黒っぽい

お盆に祖父母の墓参りをしましたが、お墓に使う石材は、花崗岩、安山岩、閃緑岩、斑れい岩の4種類になり、その石種3条件とは「硬いこと」「水を吸いにくいこと」「長持ちすること」にあるそうです。



(4) 花崗岩質砂岩（牛臥砂岩）を削り、どんな苦勞があったのか確認をする。



牛臥砂岩とは、吉井地区の南に牛臥山・城山の二つの峰がありますが、古来よりこの牛臥山に良質の砂岩が産出されたようです。吉井地域では東谷・大沢地区で「多胡石」として産出され、石灯籠など多様な石材・石製品が作り出されたそうです。「多胡碑」の石材は、2021年に見学をした綿貫観音山古墳の石室天井石などにも使われていた石とのことでした。

石材店のホームページを見ると、切削機や研磨機（ジスクサンダーとダイヤモンドカッター刃）などを利用してきれいに切り磨き上げていきますが、昔はきっと鉄器（ノミやタガネ）などを利用して、時間をかけて切削していたに違いありません。

石を削ることがどのくらい大変なことなのか知りたいと思い、見学の途中で牛臥砂岩を見つけ自宅に持ち帰り、技術の授業で学んだやすりで削ってみようと思いました。

① 牛臥砂岩のこの面を削っていきます ②やすりを掛け始めてから5分



③2枚のやすりを使い、約30分後表面が平らになりました

手が痛くなってしまいましたが、光に当てるとピカピカしています。



機械の無い時代には、こうして石碑に文字を彫る準備をしていたに違いありません。

おわりに

小学 5 年生から夏休みの宿題として続けてきた東国文化自由研究ですが、群馬県には日本最古の旧石器時代からの遺産が多く残り、全国でもまれに見ない歴史の宝庫だと改めて思いました。

今回の「日本に文字がない時代になぜ！？上野三碑は作られたのか」では、大和政権との深い繋がり、そして先進技術を持った渡来人の影響が強かったことが分かりました。

戦前までは世界から学ぶことが多かった日本ですが、戦後は「世界に追いつけ！追い越せ！！」と目まぐるしい経済発展を遂げ、現代では世界を牽引する国の一つになっています。

これからも貧しい国を助け、先進技術を発信し続けて、世界の発展に貢献できる日本人の一人として、私も活躍をしてみたいと思います。

東国文化の価値を発信して、大好きな群馬県の歴史も描き続けていきたいと思います。

【引用した文献・インターネット検索資料等】

- ・ ことば研究館のサイトを運営する斎藤達哉さん「2019年3月8日のブログ」  
<https://kotobaken.jp>
- ・ 上野三碑 パンフレット及び高崎市ホームページ  
<https://www.city.takasaki.gunma.jp/>
- ・ 第一学習社「新編日本史図表」
- ・ まいにちマナブ「中1理科 火成岩の種類と覚え方まとめと問題」  
<https://manab-juku.me/>
- ・ ウィキペディア「上野三碑、日本三古碑」  
<https://ja.wikipedia.org/>
- ・ 石を研磨する最高の方法  
<https://www.wikihow.jp/>